

第1回庄内町立図書館協議会（書面による質疑応答）

※庄内町新型コロナウイルス感染症対策本部より指示されております「庄内町の対応方針」に基づき、感染防止のため開催を中止し、書面による質問並びに意見聴取としました。（令和2年4月24日現在）

1 報告事項

- ・令和2年度庄内町立図書館運営計画について
- ・令和2年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・令和2年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・令和2年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

委員 図書館サービスを周知させるのは人手不足の中、大変なことと思う。フェイスブックでの広報やインターネットを使つての予約は利便性に優れている。図書館を多く利用している年代（小学生や高齢者）はインターネットの環境にない人もいると思うので、どのように知らせていくか難しい問題である。

事務局 年代によって、情報収集のツールが異なる時代、紙媒体だけ、或いはWEBサイトだけに偏った情報発信では、すべての年代層には情報が届かないと認識しています。伝えたい情報を、各利用者層に応じた形態で、スピード感を持ってお知らせできるよう、今後とも努めていきます。具体的には、広報しようない及び当館HPでの新刊情報やイベント情報の発信、また記念館においてはフェイスブックでの情報発信も継続しています。更に、「図書館あんない」については、今年度より新着本紹介を中心とした内容に一新し、図書館来館者や公民館やクラッセ等、町内各施設を窓口にも、より新鮮な情報提供ができるよう対応します。また、各学校に対しての新着本情報の提供についても、実施に向けて準備しています。

委員 各種催し物は多くの年代から喜ばれたようなので、予算の少ない中でも継続できるように希望する。

事務局 今年度から大幅な予算圧縮となっておりますが、近年新規に開催した事業の中には、0円予算で、工夫を重ねて実施しているものもあります。例えば、子どもたちの利用促進をねらいとした「ナイトライブラリー」については、第一公民館よりDVDを借用し上映会を実施したり、図書館まつりで実施したミニコンサートでは、町の地域おこし協力隊員にコンサートを依頼しました。今後も、予算を極力かけずに実施できる内容について、アイデアを出しながら検討し、事業を進めていきます。

2 協議事項

- ・庄内町立図書館事業評価令和元年度分について

委員 昨年に引き続きサービスの向上に努めることが重要目標ですが、今年は新型コロナウイルスという予期せぬ相手がいるため、どこまで実効性があるか心配です。

事務局 今年度は予算の削減に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止対策も加わり、計画されている各事業開催の見通しも中止・延期・縮小という状況にあります。子どもたちを対象としたおはなし会は6月までは中止としていますし、例年夏休み期間に合わせて開催している「つちだよしはる絵本原画展」につきましても、幼稚園交流・創作活動や中学生による Jr. 学芸員の取り組み（作家へのインタビュー及びパネル制作）、原画展期間の作家によるワークショップは中止という判断をいたしました。現在延期としております研修会や講座につきましても、今後の感染拡大状況を踏まえつつ、時期を遅らせての開催を目指してまいります。

委員 情報発信として町広報は全家庭に配信されるが、何しろスペースが狭いので、インターネットに切り替えることが出来れば情報量も格段増えるのではないか。（町全体で検討が必要）

事務局 庄内町では、紙媒体の広報のほか、各種 WEB サイトにて様々な情報発信を行っています。例えば「<http://www.town.shonai.lg.jp/gyousei/>」内「広報・情報発信」等がございます。当館でも独自の HP を開設しておりますので、今後も季節に応じたおすすめ本や館内特別展示コーナーでご紹介した本の紹介等、新鮮な情報のアップロードに努めてまいります。

委員 分館利用数の減少について、特に団体貸出数が減ったことが大きいように思う。絵本の読み聞かせメンバーと話し合い、△510 程の数にならないようにと…。コロナ騒ぎでとんと進めません。残念です。中高生の利用が増加したのはうれしいです。入りやすい環境になったのかも勝手に思っています。

事務局 分館の運営については、分館応援団の皆様のご尽力により、ここ数年順調に利用率も向上しています。昨年度、そして新型コロナウイルス対応が迫られている今年度に関しては、数値的にはダウンしておりますが、その中でどのような対応ができるか、本館の運営も含め、検討を進めてまいります。

3 その他

委員 新型コロナウイルスの影響で、ここ半年近く本を借りることが出来ず、自分で買って読むとしても限度があり、こんな時こそインターネット予約で極力対面接触を避けての貸出しを考慮していくしかない。

事務局 新型ウイルス感染拡大防止対策として、県立図書館はじめ各市町村の図書館と、連日情報共有しつつ対応を進めてきています。その上で、各自治体の対応方針に基づき「3密」を避けてのサービス再開を進めているところです。現在は、滞在時間を1時間以内とする、閲覧・学習スペースの椅子の間引き（2m間隔）等の対応を取りつつ、通常の開館時間で運営しています。対面接触を避けるインターネット予約のご利用は有効であり、新規登録者の皆様にも、これまで以上に本サービスの利用についてPRしていきます。

委員 今のところ令和2年度の予定はことごとく中止になり、図書館運営計画にも多大な影響がある。今後は今までと違った運営を迫られる可能性も考えていかなければならない。

事務局 社会全体で、今「新しい日常」「新しい生活」を模索しているところです。図書館においても、日常のカウンターサービスを始め、各種イベントの開催方法等の見直しが求められています。「3密」を避けながらもどのようなサービスが展開できるのか、中止の判断の前に「今やれることは何か」という視点で検討を重ねていきます。

委員 以前から要望していたが、分館に「団体貸出本」として、本を回してほしいと思ってる。本館の利用冊数も“増”となるし、分館も新しい本が多く回ってくるようになるので、利用者の皆さんに大喜びされると思う。

事務局 分館における「新しい本の循環」のための方法だと理解していますが、新着本は需要が高く、実施するとすれば、本館の開架から閉架に移動する際に、一定期間分館へ移動しご利用いただく形になるかと思います。本館では、実用書につきましては、法律の改正等、社会情勢に合わなくなった本、或いは時代の変化で需要が落ちてしまった本などは、適宜閉架に移動させていますが、ニーズが高い文学については、人気作家の本などは、10年以上開架に設置し、読み続けられているものもあります。よって、分館利用者にも、より新鮮で喜ばれる内容の本を本館から巡回するのは、かなり難しいのが実情です。考えられる解決策としては、現在は本館・分館で極力同じ本は購入せず、より幅広い選書となるよう心掛けていますが、分館でも需要がある人気作家の本については、本館からの予約配送対応ではなく、分館で初めから発注し、書架に並ぶようにする、といった方法は有効かと思います。また、利用が多いレシピ本は本館でも開架→閉架の移動が比較的早い分野ですので、一定期間分館に移動させるこ

とは可能です。これらについて、早速検討いたします。更に、小・中学生に人気の本については、分館でもできるだけ購入に努め、本館への移動手段がない年齢層へのサービスにも配慮していきます。なお、分館では本館同様の図書館システムを通して貸出しをいたしますので、本館から移動された本については、団体貸出扱いにはならず、あくまで分館での貸出しカウントとなります。

委員 水彩画記念館運営について、内藤先生の人となり分かるものが欲しい。先生を身近に感じてもらうにはいい方法だと思います。館長構想による資料展示ができたらいいのではないか。

事務局 新図書館では、特に水彩画記念館との連携を運営の柱のひとつとして掲げています。例えば、記念館入口部分についても、インフォメーション機能や略歴掲示等、誘客につながるような空間づくりを目指します。また、今後は更に内藤秀因についての調査・研究を進め、より内藤秀因の理解が深まるような冊子を作成し、展示及び閲覧が可能となるよう、取り組んでいきます。